

巻頭言 患者さんとその家族の笑顔を守るために

2023年4月より乳腺外科診療科長、教授として赴任した千島隆司と申します。横浜市内の病院で外科医としての修練を積みながら、横浜市立大学で臨床、教育、研究に携わってきました。2012年からは同じ医療圏にある横浜労災病院で乳腺外科部長を務め、この度ご縁があって昭和大学横浜市北部病院乳腺外科の立ち上げに関わることになりました。

私は「病を診る医学だけではなく、人を見る医療を実践する」を信条として、乳がん診療に取り組んできました。現在、日本では毎年10万人以上の女性が新たに乳がんと診断されます。検診の普及、治療法の目覚ましい進歩により85%以上の患者さんは乳がんを克服することが出来るようになりました。一方で、日本女性の乳がんの発病は40歳代後半にピークがあります。家庭では母として、妻として多忙を極め、職場では働き盛りの年代である女性が、ある日突然「乳がんとの闘病」に直面することになるため、その身体的・精神的負担は計り知れません。

今から50年位前は、乳がんを発病した患者さんの30%近くが乳がん亡くなっていました。25年位前からは「根拠に基づいた治療=Evidence Based Medicine」の概念が導入され、多少の生活を犠牲にしても「がんを治す」ための治療が優先されてきました。令和の時代、国が掲げる「がん対策基本計画」にも示されるように、「がんになっても夢や希望を叶えたい」というサバイバーシップが重要視されるようになっていきます。「乳がんは治った・・・でも仕事を失った、夢をあきらめた」というのでは、長期間にわたる闘病生活が報われません。人は皆、誰もが人生という“物語”の中で生活しています。乳がん患者さんにとって「がんとの闘い」は、決して人生における単独のエピソードではなく、乳がんに関わる前の人生（物語）と、乳がんが治った後の人生（物語）とも連続しているのです。つまり我々医療者は、患者さんの想いや価値観を共有し、尊重しながら治療に取り組むことが大切だと考えています。

私は乳がんを診療するにあたり、病気を診る（cure）だけではなく、患者さんを見る（care）ことが大切だと考えています。医師が最新の治療を提示しても、患者さん側の“治療を受ける環境”が整っていなければ、患者さんは必要な治療をやり遂げることが出来ません。最新の治療も最後までやり遂げなければ、期待している効果は得られないのです。そのためには、医師だけではなく、がん診療に携わるすべての医療者で役割、責任を分担しながら、チームとして患者さんを支援していく必要があります。

昭和大学横浜市北部病院乳腺外科では、医系総合大学のメリットを生かし、患者さんとその家族が笑顔でいられるための安心、安全なチーム医療を提供していきたいと考えています。



＜乳腺外科 診療科長＞
＜千島 隆司 教授＞

- P1. 【巻頭言】患者さんとその家族の笑顔を守るために
- P2～3. 【医学講座コーナー】「ほくろ」について
- P4. 【お知らせ】面会制限緩和のお知らせ
- P5. 患者さんからのご意見・ご要望
- P6. 【お知らせ】がん患者サロン「きぼう」現地開催再開について
【編集後記】



【医学講座コーナー】「ほくろ」について

(皮膚科 助教 須永知里)

「ほくろ」とは？

一般的に「ほくろ」といわれるものは、細胞の成長が未熟なメラノサイト系細胞（いわゆる色素細胞）である「母斑細胞（ぼはんさいぼう）」の増殖によるものを指します。母斑とは、皮膚に生じる腫瘍のことで、いわゆる「あざ」の一種です。

色は黒色のものだけでなく、褐色や正常皮膚色のものや毛を伴うものもあります。

20 ～ 30 歳代をピークとして、日本人では平均約 10 個できるといわれています。当科では、まず拡大してみることができるダーモスコピーという機器を使用して診察します。

ダーモスコピーの所見からあきらかに良性と考えられるものは、経過観察とします。



悪いほくろ？「悪性黒色腫（メラノーマ）」

ただ、一見ほくろに見えるものでも、診察すると悪性化のリスクが高いものやすでにがん化しているときもありますので注意が必要です。

なかでも悪性黒色腫（メラノーマ）は、手術による切除が必要な悪性腫瘍です。

悪性黒色腫の発症は、日本人では10万人に2人ほどといわれています。

この腫瘍は、症状や病理結果により4つに分類することができます。盛り上げるような「結節型」、平らに徐々に拡大する「表在拡大型」、日本人に多く手足にできることが多い「末端黒子型」、顔にできやすい「悪性黒子型」の4つがあります。

悪性黒色腫を疑うポイントは5つあり、ABCDEの頭文字であらわされます。

ABCD (E) 診断基準

A symmetry 	B order irregularity 
半割しても形が非対称である	境界がギザギザしていたり、色のにじみ出しがあったりと、鮮明な部分と不鮮明な部分がある

C olor variegation 	D iameter enlargement 	(E volving lesion) 
黒褐色主体として色調が均一でなく、色むらがある	長径が6mmを超えている	サイズ、形態、高さや色調など進行性的変化がある

【医学講座コーナー】「ほくろ」について

(皮膚科 助教 須永知里)

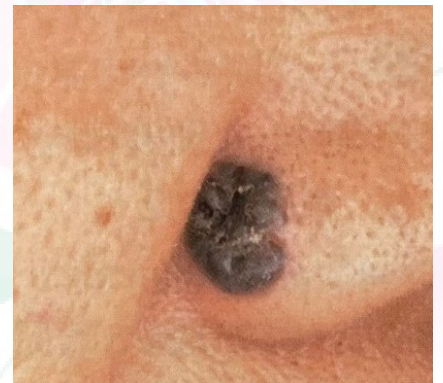
- A 形:ほくろは円形や楕円形であるが、悪性黒色腫は整った形をしていない。
- B 境目:ほくろはくっきりしてみえるが、悪性黒色腫はギザギザやぼんやりしている。
- C 色:ほくろは色が均一であるが、悪性黒色腫は色むらがある。
- D 大きさ:ほくろは 6mm 以下であるが、悪性黒色腫は 6mm 以上ある。
- E 性状の変化:隆起を示す場合と性状の変化を示す場合があります。

そのほくろ、「ほくろ」じゃないかも？

次に、ほくろと区別が必要な基底細胞がんと呼ばれる皮膚がんについてです。

40 歳以上に見られることが多く、80%以上が顔にできます。紫外線が原因と言われています。

黒色のことが多く、中央がくぼんでみえるのが特徴です。我々皮膚科医が、ダーモスコピーで診察すると枝分かれした血管がみえることもあります。進行すると出血することや急激に大きくなってしまうこともあります。



(あたらしい皮膚科学第3版から引用)

かゆみや痛みがないため、気が付かないことや放置してしまうこともあります。出血した場合や急なサイズの変化があった場合は、速やかに皮膚科受診をおすすめします。



これって本当にただのほくろ？
悩んだら、いちど当科へ
ご相談ください！

【お知らせ】面会制限緩和のお知らせ

日頃より新型コロナウイルス感染症対策へのご協力をいただき、誠にありがとうございます。
この度、政府発表の新型コロナウイルス感染症5類引き下げに伴い、面会制限を下記の通り一部緩和いたします。

病 棟	面会方法
一般病棟	患者さん 1 名につき家族 2 名まで 1 日 1 回 15 分まで
小児病棟	保護者の方 1 名 1 日 2 時間まで 11 時～19 時
N I C U ・ G C U	予約制 1 枠 2 時間 3 組まで 9 時～17 時
救急病棟	面会禁止
マタニティハウス	立ち合い分娩の再開 (立ち合い中の病院外への外出は禁止となっております。) ※その他詳細はマタニティ外来へご確認ください
緩和ケア	1 日 1 回 2 時間まで

【面会窓口について】

中央棟

	11 時～18 時	18 時～翌 11 時
月曜～金曜	中央棟 1 階 インフォメーション	中央棟 B1 階 時間外受付
土曜	中央棟 1 階 インフォメーション	中央棟 B1 階 時間外受付
日曜・祝日	中央棟 B1 階 時間外受付	

※西棟病棟は各病棟にてお手続きください。

【注意事項】

- ・院内では、引き続き「マスク」の着用をお願いいたします。
- ・マスクはご自身でご用意ください。
(マスクまたは鼻口を覆う代用品を着用されている方のみ許可いたします。)



引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより、ご意見箱にいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に、改善策を掲載させていただきました。

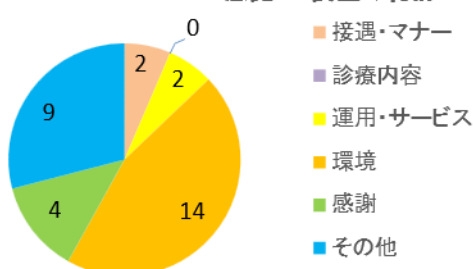
掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

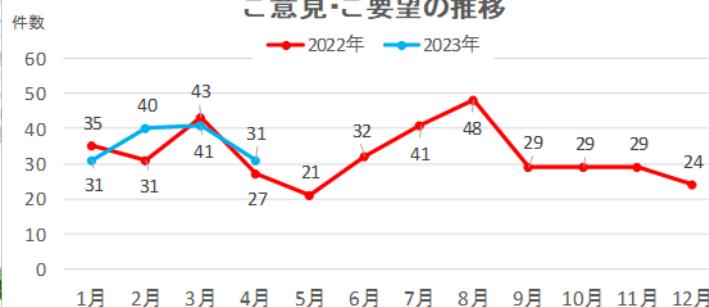
ご意見・ご要望	回答・改善等
予約の変更がしくて、午後が繋がりにやすいと聞き、3日間 16:00～16:30 に電話したが、つながらず、困り果てて病院まで来ました。どうか改善してほしい。	この度は予約センターの電話がつながらなかったとのこと、申し訳ございませんでした。 予約[変更・キャンセル・新規予約(要紹介状)]につきましては、「電話」のほか、「FAX」と「メール」からでも受付を行っております。お電話がつかない場合は、お手数ですがそちらをお試してください。 なお、「メール」は当院のホームページから直接発信することができます。(右記 QR コード参照) 【予約センター】 電話 : 045-949-7489 FAX : 045-949-7137 メール : 当院ホームページの専用フォームから直接発信できます。 ※当院宛の紹介状が無い方の“新規”の受診予約は行っておりません。 ※予約センターでは診療予約以外のお問い合わせ等には対応しておりません。(回答部署：医事外来課)
本日、11 時の診察予約で 30 分前に西棟 地下駐車場に入ったのですが、満車でした。患者は肢体不自由者で車椅子です。車椅子の利用スペースは全くなく、入場したもののこの日はとめられない状況でした。車椅子スペースは全て工事中となっていました。ありえないことだと思います。改善を求めます。	これまでご不便をおかけしておりましたこと申し訳ございませんでした。2023 年 3 月 22 日に駐車場の拡張工事が完了しました。身障者用駐車スペースについては、これまで西棟の各フロア 1 ヶ所から 4 ヶ所に増設しました。また、4 月 1 日から中央棟地下 3 階の駐車場を再開しましたので、あわせてご利用ください。 【駐車場身障者用スペース】 ・中央棟：9 ヶ所 ・西 棟：各階 4 ヶ所ずつ (回答部署：管理課)



2023年4月
ご意見箱に投函された
ご意見・ご要望の総計31件

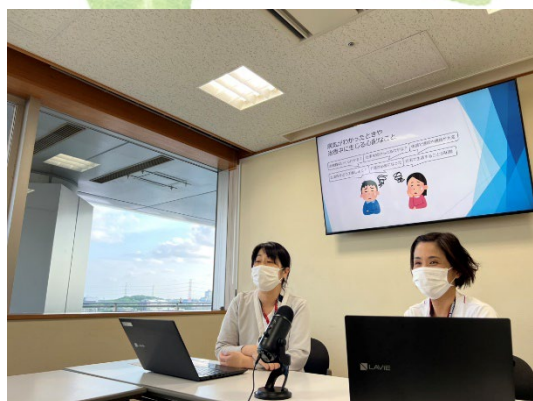


2022年・2023年
ご意見・ご要望の推移



【お知らせ】がん患者サロン「きぼう」現地開催再開について

毎月開催しておりますがん患者サロン「きぼう」ですが、この度現地での開催を再開いたしました。



写真は、5月に行った中央棟9階の会議室でのがん患者サロン「きぼう」の様子です。オンラインではなかなかお話ししづらいことも、こうして現地で看護師や講師がお話を聞くことで、患者さんやご家族の方もお話ししやすくなるかと思います。「自分のことは話したくないけど、話だけでも聞きたいな…」という方もお気軽にお越しください。皆さんの悩みに少しでも力になれるよう、お手伝いさせていただきます。

6月度のがん患者サロンでは、「放射線治療の副作用・放射線治療中の生活について」をテーマにミニレクチャーを行います。その他にも、治療中・治療後についてのご不安がある方やご相談したいことがある方も、ぜひご参加ください。

開催日時：6月15日（木）14：00～15：00（予定）

開催方法：中央棟9階会議室（オンライン参加可能）

（詳細は右記のQRコードからご覧ください。）



編集後記

気がつけば6月、いつの間にか雨の日が多くなり、梅雨となりました。

梅雨と言えば、雨に濡れたアジサイがきれいな季節ですが、カビの発生しやすい時期でもあります。

カビは黒ずみの原因になるだけでなく、放置しておく健康にも悪影響を与える可能性があります。夏に発生することが多い「夏型過敏性肺臓炎」は、カビの胞子を繰り返し吸入することで発症するアレルギー性の肺炎です。その他にもカビ自体がアレルギー源となり、喘息や鼻炎、皮膚炎などを起こすこともあります。

まさに百害あって一利なし！そんなカビの発生を防ぐためには、日頃の掃除が大切です。

浴室やキッチン、水分や汚れを放置したままにはせず、周囲をふき取っておくだけでもカビの発生を抑えることができます。また押し入れやクローゼットなどは除湿剤を置いて、たまに扉を開けておくと風通しが良くなります。

カビが繁殖する前に水分と汚れを取り除き、風通しを良くして、清潔な部屋で快適に過ごせるようにしたいものですね。

（呼吸器センター 田中洋子）

北部病院だより 第180号
2023年6月1日発行

発行責任者 門倉 光隆（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL：<https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。

